

京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書

平成30年6月26日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団
会 長 辻 井 昭 雄 様

所属部局・研究科 京都大学情報学研究科

職 名・学 年 博士課程3年

氏 名 中 野 元 太

助成の種類	平成30年度 ・ 国際研究集会発表助成		
研究集会名	RISK2RESILIENCE(リスクからレジリエンスへ)－Nepal’s Collective Journey Toward a Safer Future(ネパールの未来の安全に向けた旅)		
発表形式	<input checked="" type="checkbox"/> 招待 ・ <input type="checkbox"/> 口頭 ・ <input type="checkbox"/> ポスター ・ <input type="checkbox"/> その他()		
発表題目	Lessons from 1995 Kobe Earthquake Implemented in Nuwakot Post 2015 Gorkha Earthquake Through Disaster Risk Reduction Education by Team Hyogo, Japan 1995年阪神・淡路大震災の教訓を生かした2015年ネパール大地震後のヌワコット郡でのチームひょうごによる防災教育		
開催場所	ネパール連邦民主共和国・カトマンズ市・ラジソンホテル		
渡航期間	平成30年6月17日 ～ 平成30年6月24日		
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有(PPT資料・写真)		
会計報告	交付を受けた助成金額	150,000円	
	使用した助成金額	150,000円	
	返納すべき助成金額	0円	
	助成金の使途内訳	交通費(バス・航空券):	137,660円
		ビザ代:	2,700円
		宿泊費:	64,500円
日当:		29,600円	
	上記に助成金を充当		
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 貴財団の助成金により支援を得ることで、国際会議で有意義な発表、交流を行うことができました。心より感謝申し上げます。		

成果の概要／中野元太

1. 国際研究集会概要

2018 年 6 月 18 日から 20 日にかけて、ネパールの首都カトマンズで開催された国際会議「RISK2RESILIENCE (リスクからレジリエンスへ) –Nepal’s Collective Journey Toward a Safer Future (ネパールの未来の安全に向けた旅)」に出席、研究成果発表を行った。本助成金申請時の主催団体は NSET-Nepal (ネパール地震工学会)、会議名を「Risk2Resilience- International Conference organized on the occasion of 25th Anniversary of NSET-Nepal (ネパール地震工学会(NSET-Nepal)設立 25 周年国際会議)」としていたが、研究者や実務者らが数多く集まる当該国際会議を重要視したネパール政府が主催団体として参加することとなり、結果、ネパール内務省、ネパール復興庁、ネパール科学技術アカデミー及び NSET-Nepal との共同開催となった。そのため、上記の通り会議名が変更された。また開催場所も、カトマンズ市ラジソンホテルとなった。

当該会議は、2015 年に発生したネパール大地震からの復興と、これからの地震災害に備えるためのマルチステークホルダー間による議論を目的とし、この会議で発表された研究や実践の成果はネパール政府への提言書としてまとめられた。当該会議には、ネパール、イギリス、アメリカ、イタリア、日本の研究者、国連や ADB (アジア開発銀行)、USAID (アメリカ合衆国国際開発庁) といった国際機関関係者、ネパール内務省、教育省、復興庁やカトマンズ市役所、ラリトプール市役所といったネパール政府・行政関係者、地震防災に関連する建設をはじめとする民間企業などが出席した。全体で 150 以上の研究・実践発表が行われ、これからのネパールの地震防災についての議論が行われた。

2. 当該会議に出席した成果

応募者は、会議 2 日目に開催された Technical Session 11 の「Investing in DRR for resilience (レジリエンスのための災害リスク軽減投資)」セッションにて、「Lessons from 1995 Kobe Earthquake Implemented in Nuwakot Post 2015 Gorkha Earthquake Through Disaster Risk Reduction Education by Team Hyogo, Japan (1995 年阪神・淡路大震災の教訓を生かした 2015 年ネパール大地震後のヌワコット郡でのチームひょうごによる防災教育)」と題した発表を行った。また、同日に行われたサイドイベント「Earthquake in South Asia: Lessons from History (南アジアの地震について歴史から学ぶ)」に参加し、英語で行われた議論に積極的に参加した。今回の当該国際会議で得られた主な成果は次の 2 点である。

成果①研究成果の他分野の専門家・実務家への発信

成果②研究成果の社会実装につながる様々なステークホルダーとの交流

成果①研究成果の他分野の専門家・実務家への発信

応募者は 2015 年ネパール大地震の復興過程で進めてきた防災教育のアクションリサーチによって得られた成果を発表した。具体的には、ネパールで通常行われている、外部支援者による支援が、その目的とは裏腹に内部当事者(受益者)の主体性を停滞させ、結果として支援の効果が定着しないことを課題として指摘した。防災教育支援においても同様の現象が観察され、国際機関の支援に

よって作成された防災教育のマニュアル等が継続的な使用に至らない、ということも起こっている。こうした課題は、端的に述べた内部当事者による外部支援者への依存によって生じるわけだが、応募者はこの依存を解消するための防災教育実践をネパール・ヌワコット郡にて約 2 年に渡って続けている。内部当事者であるネパールの学校の先生が防災教育を実施する（つまり支援効果が定着する）研究成果とその手法について当該国際会議で発表した。こうした研究成果は通常、同分野の研究者が集まる学会でのみ発表され、そもそも政策立案者がそうした研究成果を実際に聞くことは少ないが、今回の会議ではその政策立案者や国際的な援助機関の参加もあったことから、通常とは異なるステークホルダーへの研究成果の伝達を行うことができたと感じている。実際に、次に示す通り、今後の社会実装にもつながる交流が行えた。

成果②研究成果の社会実装につながる様々なステークホルダーとの交流

まず、応募者が発表した発表内容は当該国際会議の成果の一つとしてまとめられ、ネパール政府への政策提言に含められる。また、ADB（アジア開発銀行）はネパール国内で学校安全にかかわるプロジェクトを推進しているが、同銀行職員は応募者の研究成果を活用することに前向きであり今後も情報共有を続ける。当該国際会議の主催団体の一つであるネパール地震工学会（NSET-Nepal）も、応募者の研究成果をネパール西部で実施される学校安全プロジェクトに活用できないかを検討してくれている。このように、マルチステークホルダーの参加する会議での発表により、研究成果の社会実装に進捗が見られている。

また、在ネパール日本大使の大使公邸での夕食会に、当該国際会議に出席していた応募者を含む 7 名の日本人が招待された。この夕食会には在ネパール日本大使、参事官及び、国際会議に出席していた東京大学、三重大学、愛媛大学、兵庫県立大学などの教授らが出席していた。ここでも、応募者の研究について共有することもでき、ここで構築したネットワークも今後活用していきたい。

最後になりましたが、国際研究集会発表助成により当該国際会議への出席・発表を行うことができました。貴財団に心より感謝申し上げます。

以上

Lessons from 1995 Kobe Earthquake
 Implemented in Nuwakot Post 2015 Gorkha
 Earthquake through Disaster Risk Reduction
 Education by Team Hyogo, Japan

Seiji, SUWA
 Genta, NAKANO



3 main project components

Targeted area: Samundratar area in Nuwakot district
 Period: June 2016-Aug 2018 (Second phase will be planned)



Reconstruction of semi-permanent school building



Create mechanism of "local teacher as active implementer of DRR education"



Development of locally fit methodology

Establishing sustainable mechanism of DRR education

Outline of the Project by "Team Hyogo"

- Hyogo was heavily affected by Great Kobe earthquake in 1995
- Hyogo prefectural government has raised donation from citizens of Hyogo after hearing the tragedy of 2015 Gorkha earthquake
- Hyogo has accumulated a lot of experiences of disaster education (Preparedness, trauma counseling, response for disaster etc.)

"Team Hyogo" A consortium of various organizations

NPO Sakura Net (liaison office), Hyogo prefectural university, Kansai Kokusai University, Asian Disaster Reduction Center (ADRC), Plus arts, SEEDS Asia, CODE etc.

In coordination with **NSET-Nepal** and **Department of Education in Nepal**

New perspective of educational support

Typical Support by Outside Supporters

- Supporters give knowledge through training and local teachers only observe the training.
- Supporters adopt textbooks and teaching materials brought in from outside.
- Local teachers don't have any opportunities to discuss their practices.

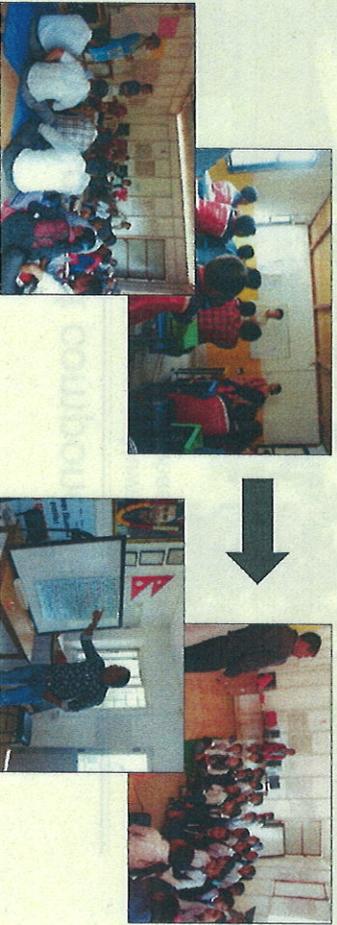
Changes Brought by this Project

- Supporters give motivation and method through training and local teachers are encouraged to replicate classes
- Local teachers make a textbook by themselves.
- Local teachers have opportunities to discuss their practices. They can learn what to teach and how to teach from good practices by other teachers.

Process of motivating local teachers

First, Team-Hyogo gave model classes and teachers' seminars.

Then, Nepali teachers gradually play more and more roles.



Support for Nepali teachers to implement classes by themselves

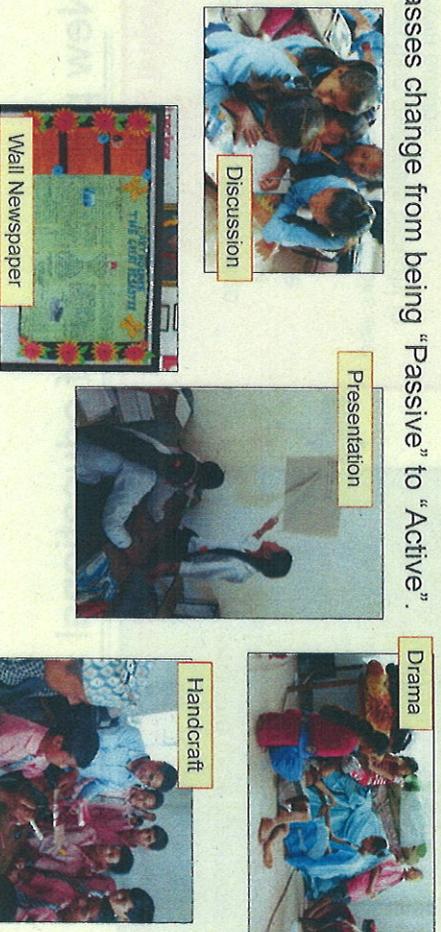


Explanation

Facilitation of Discussion & Presentation

Teachers replicate what is learnt in the seminars

Classes change from being "Passive" to "Active".



Discussion

Presentation

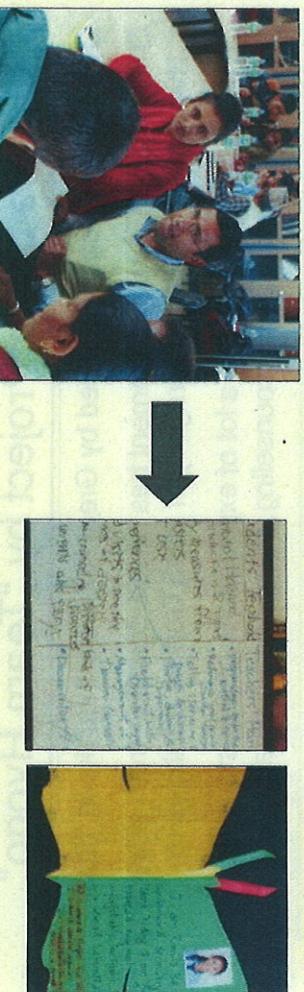
Drama

Handcraft



Wall Newspaper

Nepali teachers make localized textbook by themselves



Discussion on the Contents of Textbook

Student's Experience

Nepali teachers discuss and co-evaluate their practices



Proposal for the Future

To Expand this mechanism all over Nepal

What have been done in Nuwakot will be able to be done all over Nepal.

To Make a Framework of Disaster Education by MOE and DOE

Top-Down initiative is necessary to expand a new type of education.

To Co-Evaluate Practices and Accumulate Good Practices

Bottom-up accumulation of good practices by teachers will help more teachers start disaster education and enrich disaster education.

Thank you very much
ありがとうございます。

Special thanks

- ◆ Citizens of Hyogo
- ◆ Government of Hyogo
- ◆ NSET-Nepal
- ◆ Department of Education
- ◆ The Kyoto University Foundation

Practices
Nepali researchers discuss and co-evaluate their

◆ The Kyoto University Foundation
◆ Department of Education
◆ K2RESILIENCE
◆ Government of Nepal
◆ Minister of Health
Special Invited



全大会の様子



セッションでの発表（写真の左が応募者）



在ネパール日本大使公邸での食事会（写真右前が応募者）

Proposal for the Future